

諸家之家業

有職抄

稱意館藏本

四

73
6330
3





有職抄卷之第四

諸家ノ家業ノ篇

近衛 九條 二條 一條 鷹司

右ノ五家ヲ 攝家ト云 攝政 関白ヲ以先達トシ侍ルナリ

攝政

大化抄云 取要 攝政ハ周ノ成王幼ニメ位ニツキ玉ヒシ時周公

旦ト云シ人叔父ニテ此成王ニカハリテ政ヲ行ヒシヨリ幼キ故

ノ攝政ハ始リタル也我朝ニハ清和天皇幼クテ位ニ即玉ヒ

シカハ忠仁公ト云人母方ノ叔父ニテ天子ニ替政ヲ行シ也周

公旦ノ例トカヤ是ヨリシテ今モ帝王ノ幼ニヌハシニス時ハ

去 五味均平蔵



拱政有也藤氏一人ノ外職補ル夏ハユメクナキ夏之世未代ニ
成タレヒカスカニ一人ノ外職ニ補ルハナキヤ滅ヤコトナキ夏
ニソ帝王ニ替テ政ヲ行ヘハ只主上ヲフシ右又ニコソ在ル任官
叙位官奏如モナキ拱政ノ時ハ我直声ニテ行也凡為下臣人
撰政ノ上スルハ無之公夏杯ヲ行夏モナシ只帝王ノ替テ御側ニ
伺候ノ御代官ヲスル人也節會杯ニモ帝王ノ初ニハシラス替テ
主上ノ御作法ヲスル也凡撰政関白ハ物ヲ不知シテハ不叶夏ニコ
ソ侍ト云ヘ百寮訓要抄云撰政我朝ハ忠仁公清和天皇ノ
外祖ニテ負觀ニ周公ノ例ニ任セテ政ヲ撰政スヘキ由詔ヲ下サ
レシニ撰政ハ座ヲ天子ニヒトシク双テ天下ノ政ヲ成敗スサレハ天

子ニヒトシクスル職也誠ニ撰政ノ職ハ旦讀夕見ト稱シテ如
予短才不堪ノ臣暫モソノ職ニ雖有夏ニテ侍也

撰政ノ関白ト其職相替夏

仁平元年三月三日宇治左大臣記云頭朝隆朝臣キタリテ
示ス宸筆ノ宣命皇帝政夏ヲ親ス名ハアリトイヘヒ其
関ナラシメ是イカヘ答テ曰撰政ハ則天子也是ヨリテ書知
也関白百官ノ振己トイヘヒ猶臣下ノ位ニアリ其理書クヘカ
ラスシカノミナラス今関白宸筆ノ宣命ヲ書不見例

関白

大化抄曰取要
漢朝ニ漢ノ霍光ト云人宣帝位ニ即シ時ハ霍

光ニ政ヲ圖リ白フセトテ政ヲ預ラシ也其圖白ノ始ナリ本朝
ニハ陽成院昭宣公ニ方機ノ巨細百官ノ按己皆圖リ白セト云
詔ヲ下サレシナリコレモ漢ノ霍光ノ例也ト云

百寮訓要抄圖白人臣ノ位ニテ只政ヲ管領スル也攝政圖白ヲ
殿下ト号シ殿ト申モ天下ヲキキテハ傍若無人ノ間衆庶是
ヲ貴テ申し付又レナリ

又内覧ノ宣旨トテ可奏更可下更先コノ人ニ申スヘキヨシ
宣下セラレテ奏聞ヲスヘキ更ヲモ又宣下セラルヘキ更ヲ
モ大小臣ニミナ 圖白兼テ其上ニテ遂奏聞或宣下シ
侍ルトモ圖白ヲ辞ストイヘ凡猶内覧ノ宣旨ヲノコサレシ人ヲ

太閤トセフス然ニ圖白ノ父タル人ヲ太閤ト号スルノミナリ本儀
父子ノ義ニヨラス前圖白内覧ノ臣ニテ猶政務ニ交リ侍ルヲ太
閤ト稱也又圖白ヲ執柄ト稱スルハ周礼天官ニ以ハ柄詔於王取
於群臣ト云ヨリ 稱シ侍ニテ諸家ノ輩ノ夫々ノ家業モ其柄
ハミナ執政家ニ執ル更ニテ侍也

公武大禮畧記曰凡執柄ノ家門ヲ攝家攝政殿下ナト申
レ侍リテ凡種々不可此類更ナリ百王ノ御政務補佐ノタメ
ニ天地開闢ノ始天照大神天ノ兒屋根命御兄弟君臣ノ御
約束タリト云

天津兒屋根トハ所謂春日藤氏ノ祖神ナリ往古ノ御誓約ヲ

ニ夕カサセ不給故ニ天ノ君万乗ノ主御師範トシテ棋家関
白ノ御職ヲウケツカセ玉フ然ハ禁裏ニシテハ偏ニ院官ノ
御迹ニナツラヘ侍テ百氏千官ヲナサセラルル辟言當今ノ御連
杖トイヘ氏執柄ノ公達ニ對テハ各等輩ノ御礼節也ト云ク三
光院ノ抄ニ云棋家ト申ハ棋政家ト云心ニ候元来ハ近九
ノ二流ナリ近衛ヨリ出タル鷹司ト稱シ九條ヨリ別レタル
ヲ二條一條ト申候是ヲ棋家ノ五流ト号メ近衛ハ系圖
ノ面接領タリトイヘ氏名記コレナシ九條ハ庶流タリトイヘ
トモ峯ノ関白月輪禪院後京極棋政ノ御記是ヲ三代
ノ正記ト号シテ天下ノ鏡トスシカル間九條ハ正嫡トシ工候歟

シカリトイヘ氏諾家ノ用ハ五流差別ナシ但二條ノ一流ハ南
朝御出奔ノ後後光嚴院聖運ヲ開レ當代ノ御一流正統ヲ
持タル夏ハニ父^{後普光園}棋政 一家ノ勲功也是ニ依テ今ニ至マ
テ天下ノ御師範ト稱スト云ハ
三光院抄ニシルセシ如嫡庶ノ付込ハ系圖ノ上ニテ兄弟ノ爰
ニ不依家業ノ口傳并先祖代ノ文書ヲ傳領シ侍ルヲ嫡家
ト申侍夏也右棋政関白ト職家業ノ爰粗記シ侍リ又此上
ニ神代ヨリ棋家ニ代々只一人ニサツケ相傳レ未侍ル大嘗
會天神地祇ヲ文ロシ奉ル大夏并神職ノ儀又ハ即位ニ灌
頂ノ大夏コノ兩條代々執柄ノ人天子ニサツケ奉夏ニ

侍ル以ニ節會官奏叙位除目ヲ四箇ノ大夏ト名ツケテ
貞信公以來代々ニ口決ヲ相傳シ侍ル也是旁以テ攝政ノ家
業トス詩歌管絃能書算ハイッレモ尋常之ヲアリニ侍レ
攝家杯ノ家業トスルモノニテハ不侍夏也

伏見

八條

右兩親王伏見ハ琵琶後崇光院コノカタ代々堪能ノキコエ侍
此道ヲヒテハ當時モタクヒナク侍ル也八條ハ故式部卿和
歌ヲ以テタシナシモテアソヒ侍ル也

親王ノ儀當時ハ旧儀ニカハリ昔ハ皇子連枝ノ中宣下ヲ蒙
ウレシヲ親王ト称ス皇子連枝ノ外ハ孫王ヨリ皆諸王ト号

ス臣下ノ官位ヲカツケラレ若諸王ノ中御猶子ノ儀ヲ
以テ宣下ヲ蒙リ侍ル輩ハ是ヲ諸親王ト号ス元和十
七箇條ノ新制ニ諸親王別ニレサル是先規ニカナヒ侍
ルニヤ皇子連枝ニテモ宣下ヲ蒙ラサル人々ハ同ク臣下
ノ官位ニ進ム皇子連枝ノ宣下ヲ蒙ル輩モ姓ヲ賜レ
ハ臣下ノ官ニナル也此ニ世以下ハミナ諸臣ノ列ニ侍リテハ
公夏政ニシタカヒ有職ヲ家業トシ侍ル夏也

清華

久我

三條

西園寺

德大寺

花山院

大炊御門

右花族ノ人達ト号又清華ト称久此外丞相ニ昇
ルトモカウ侍ルトモ大将ヲ不兼ル家ハ夕大臣家ト称シテ
清華ノ名ヲ不得清花ハ太政大臣ヲ以テ先達トス其職一
人ニ師範シ儀形四海云々 其人ナキハ則カクト云故則朝ノ官ト云
但シ此中ニモ相国ノ例ナキ家モ傳ニヤサレモ大将大臣兼
侍ル輩ハ皆一例也

又當時皇子皇孫ノ姓ヲ玉リテ大臣大将ニ昇リ或
政因白ノ息ノ中先達ヲトケスシテ大臣大将ニ成侍ルモ
カウハ清華トス近代其人ナキニ依テ右ノ三家等英雄ノ
思ヲナスモノ也

令集解曰取要 師トハ人ニ教ルニ道ヲ以スル称也範トハ臣也淺
ハ善也形ハ又法也四海トハ九夷ハ狄七戒六蠻也又云一人ヲ尊
クニ先王ノ典籍ニ准テ當時ノ憲章ヲ施ス也是ヲ以テ人君
其教ニ從ヒテ能天下ヲタモチ 福慶ヲ子孫ニナカシテ
ト云々

大化抄云太政大臣大伴ノ皇子始テ是ニ任撰政因白カ
ケツカケ之又凡人ハ其器ヲエラニテ任セラルシカルヘキ
人ナキトキハ則黜テカカル也故ニ則黜ノ官ト申スナリ
是モイミシキ事也撰政因白ニツキテ此上スルナシト云々
而蔡訓要抄云一人ニ師範シ四海ニ儀形ナリ 国ヲ治メ道

ヲ論し陰陽ヲ治クル由全ニ見ユサレハ王佐ノ才タクハ
テ天子ヲ神ケ奉ルヘキ器用ノ人ナルヘキ官也其人ナケレ
ハ朝之故曰則朝官也撰政園白ノ兼官也但執柄ハ猶上
ニテアレハ太政大臣ヲハノワム夏ナシ主上御元服ノ時ハ必
執柄ヲ任ルナリ凡又ノ極官也ト云ク

右清花ハ相國ヲ以テ先達トス故清花ノ家業ハ一人ニ師
範シ四海ニ儀形タル才知ヲタクハハ此上ニ四箇ノ大夏等ヲ
傳受シテアリヨリ廊下シ侍ルヘキ也夫四箇ノ傳受ハ昔
ヨリ諸家悉ク執柄家ヨリ授ケ侍ルヘキコトナリ小野
宮九條兩流トテイサ、カカハリタル夏等ト侍レ氏ミテ執

柄家ヨリ出タル流ニテ侍也西宮抄ノ作者西宮左大臣
ハ九條ノ右丞相ノ弟子北山抄ノ作者四條大納言ハ小野
ノ宮ノ流ニテ侍ルナリ

久我ハ元祖土御門右大臣 師房 村上天皇孫ニテ源ノ姓ヲ
玉ハリ臣下トナリテ家ヲ立ル有職宇治ノ園白ノ弟子ト
ナリテ四箇ノ大夏迄傳受シ則猶子ノ礼ヲモ傳シナリ
ソレヨリ子息堀川左大臣 俊房 小野宮大納言 師頼 トツ
タハリ久我ノ相國 雅実 ハ堀川ノ左府ヨリ傳受シテ中
院右府 雅実 久我内府 雅通 等相續シテ傳受ト見エタ
リ近クハ土御門大納言 雅房 光明照院撰政是ヲ授ク

堀川ノ内大臣貞親北畠大納言親房等ハ後光明照院俊白

ヨリ傳受シ侍レナリ三條西園寺德大寺今出川等ノ元祖

閑院太政大臣公季ハ九条改丞相ノ息ニテ法真院攝政等

ノ舎弟ニテ侍レハ公夏ノ作法以下ニテ當流ヲ傳ヘテ侍レ也

然レテ三條内大臣公教德大寺右大臣雅家ノ弟子也三條

左大臣実房ハ中御門左大臣ヨリ相傳スミナコレ久我相国

末ニテ侍レハ當流勿論ナリ又西園寺常盤井相国実氏

光明峯寺ヨリ相傳テウケテ子息冷泉相国ヘ傳ヘ侍

ルヨシ見エタリ

花山院ノ元祖左大臣家忠大炊御門ノ祖贈相国任実

等ハ京極攝政ノ息後二条ノ俊白舎弟ニテ侍レハ門弟

勿論ナリ但太政大臣忠雅ハ九條相国伊道ヨリ相傳ノ由

ニ見エタリ

大臣家

三條

三條西

中院

右大臣家ト号メ内大臣或ハ右大臣迄ナル家也攝政俊白
太政大臣ナト公夏ヲ行フナキニ依テ宮中ノ公夏ハ皆以テ
左大臣ノ奉行スルノ左大臣不参ノ時ハ右大臣内大臣ツカ
サトルコト左大臣ニ同シ

大化抄曰左大臣ハ誠人ヲ以テ任セラルヘキ官也左大臣ヲ
 一上トナリモロクノ公夏皆左大臣ウケタマハリテ行フ之節會内
 并官奏上卿除目叙位執事以下ノ大夏ミナ先一上ニオホセラル
 ル夏也若サハリ有明ハ次ノ大臣參テ行也ト云々百寮訓要抄曰
 左大臣モロクノ政ヲ奉行ス左大臣ハ一上ノ宣下ト云夏アリ弟
 一ノ臣下ナレハ太政官ノ中ノ夏ヲコトノク沙汰スル也何夏モ
 禁中ノ公夏ハ一上ノ參リテ行フ夏也不參ノ時ハ次ノ大臣大中納
 言モ奉行ス右又三ノ侍ル是モ中院内院ノ當重代ノ人ノ才能ニ
 ヲリテ任スル之昔ハ文才ナキ人ノ任大臣夏ハ無夏之中古以
 来ハ譜代トテ無才無能ノ人モ任ル政ノスタレタルナリ

右家業ノ夏四箇大夏有職故矣シム子トシ侍夏清花ニ
 同シ傳受ノ次弟右ノ清花ノ餘胤ニテ皆當流ノスエナリ
 近クハ後稱名院内大臣公保ハ後福照院攝政遠庭院内
 府實隆ハ大蔭金剛院園白ヨリ相傳ヲウケ侍リシナリ

羽林家

- | | | | |
|-----|-----|-----|----|
| 四辻 | 半山 | 飛鳥井 | 冷泉 |
| 六條 | 阿野 | 清水谷 | 小倉 |
| 橋本 | 姉小路 | 綾小路 | 庭田 |
| 松木 | 持明院 | 滋野井 | 川籍 |
| 水無瀬 | 園 | 難波 | 白川 |

四條

鷲尾

山科

西大路

油小路

已上先祖ヨリ 近衛司ヲ經テ中將少將ヨリ昇進シ侍リ
 ナ武官ヲカ子劍筈ヲ帶ルヲ羽林次將ト云テ諸ノ宿衛
 禁軍ノ夏ヲツカサトル也中少將ヲ經ルハ棋家清華以下
 羽林家ノ多クハ英雄ノトキカラナル夏ニ然ニシヒテ大臣ノ子孫
 ニアウサレ氏先祖ヨリ成付タル家有是中ニモ宰相ニ中將ヲ
 兼テ任ルハ凡三家ノ余流ニテニカレノ宰相中將ト稱シ侍也
 或ハ羽林方ニ藏人頭ヲ兼テ中將ト稱ス又規模ナリ
 弁官ヲ兼テ中スルハ公達ノ中才名有人ノ夏也殊ニ是

ヲ執シ侍ルナリ

右大納言或中納言參議等ヲ以テ先達トスルナリ納言
 ニナル家ハ大臣ノ子孫ニヨリテ常會官參叙位除目以
 下ノ公夏ヲ行フ故ニ大臣ノ職掌ニヒトシキ者也サレハ他家
 ニモ有職故實ノ義ヲ家業トシ侍ル夏右ニ同但中ニモ神
 祇伯ハ神道ヲ以テ家業和歌蹴鞠等ノ類也凡ニ記シ侍

名家

日野

廣橋

烏丸

柳原

甘露寺

葉室

万里小路

勸修寺

中御門

清閑寺

小川坊城

竹屋

己上先祖ヨリ文筆ヲ面トシテ儒道ヲ學テ弁官ヲ経歴
シ職更テ兼ル家也凡弁官ハ管轄ノ任権衝ノ職トシ官
中ノ夏大弁トリ行フ所之依テ重職タリ此職更ハ天下
ノ訥詔諸人ノ所望親疎ヲ論セハ貴賤ヲイハス聽ニ達ス
職也此外ノ夏トテ弁官職事ニ廷尉ヲカヌルヲ親模ト
シ侍ルナリ

右近代任魏数代ノ家ナリ又一代ノ家アリ或ハ准大臣
ノ輩アリナヘテハ大納言以下ヲ以テ先達トス此中竹屋
ハ参議以上ノ例見エス然トイヘトモ名家ノ一列ナリ各家
業ハ儒學ヲ面トシテ有職故実ヲ兼行シ侍ル也名家ハ



才名ヲ以テ家ヲ立侍ルユエニコトニ代々名記ナト記シ置
侍ル也有職口傳等撰家ノ流ヲウケ侍ルト右ニ同シ

羽林名家之外

- | | | | |
|----|-----|----|-----|
| 高倉 | 高辻 | 五條 | 坊城 |
| 唐橋 | 五辻 | 竹内 | 富小路 |
| 舟橋 | 土御門 | | |

以上名家羽林ノ外也此中ニモ名家同准ノ家アリシカル
ニ中少将弁官等ヲ経歴セサル輩ハシハラク名家羽林
ノ外ニ記シ侍ル也(大納言任スル家有或ハ二三位ヲ先達トスル
輩侍也)

新家

松敷	藪内	堀川	樋口
平松	冷泉	日野西	藤谷
棉筒	東園	久世	花園
裏辻	岩倉	七條	梅園
千種	塩小路	倉橋	

以上新家之名當代本家ヨリツカレテ更ニ家ヲタテ侍ル輩
ナリ根関清華大臣家羽林名家以下當時一家ノ家督タルトモ
カウレル侍ルモノ之中別ニ家業アル輩更ニ又在ニ記シ侍ル之
中別ニ家業

神祇伯

白川

代々伯ニナリテ大神宮神祇官等ノヲラ掌ル又主上執
柄障有トキハ毎日ノ御手代ヲツトメ侍ルナリ昔ハ諸氏混テ
任ス又高家ノ人ニ任ス中古以來モ氏トテ白川譜代ノ
任シ侍ル也又副祐史有大中臣ト部齊部伊岐等是ニ任シ侍
リシナリ

和歌

二條 冷泉 飛鳥井 三條西
右二條冷泉ハ五條ノ三位ワカレノ始ハ為氏為相飛鳥井ハ

参議雅經三條八道遠院内府以来ノコト、見エタリ當
時ハ中院大納言阿野前大納言水無瀬中納言ナト多年
歌家ヲハケシ侍ル也

文章博士

高辻

坊城

五條

近代公家相續テ任シ来ル大内記モ此ノ家譜代トナレリ
以前ハ右ノ名家ノ中日野或ハ南家江家以下ノ諸氏中ヨ
リ才智アル輩ヲ任セラル唐橋ナトモ近代儒業ヲ失ヒ
侍シナリ文章博士ハ記傳ノ儒トシテ史書ヲ學ビ諸ノ文
章ノ一ヲ司ル文内記ハ詔勅宣命等ヲ書是ニヨリテ文

筆相兼タル人ヲ任也是等近代菅家ノ家業トナリ侍
ルナリ

明經

舟橋

右代、明經博士ニ任メ本徑ヲ家業ト學ビ侍又中家モ是ヲ
家業トス然ニ清原良枝七代ノ侍讀タリ七旬ノ老耆ト成テ
口フセラ六經ノ說ヲ授ケ奉ル古今未曾有也云々
本朝四道儒ハ記傳明經明法算道ニ侍ル記傳明經ハ右ニ見
タリ明法ハ律令格式ヲ分坂上中原ノ兩流家業トス近代如無
算道ハ三善小槻ノ兩流是ヲ家業トス善家ハ算術ヲ習ヒ

小槻ハ諸国ノ調賦等勘ノ為ニ其職ニ居ル善家ハ西園寺ノ諸大夫之近代断絶ス小槻ハ官務也夏ノツヒテニ四道ノ儒ノ事記シ侍ル也

能書

清水谷

持明院

右昔ヨリ能書ノ輩アニ夕侍レ且權大納言行成以來譜代シテ家業ト成侍レハ世尊寺ノ流也又近代清水谷モ相傳ス彼等断絶ノ後持明院ハ權中納言基規以來口決ヲ傳ヘ置侍ルト見エタリ

神樂

後小路

持明院

四辻

庭田

五辻

鷲尾

藪内

滋野井

右後小路ハ刑部卿政長堀川院郞曲御笛ノ師ニ参リテヨリ代々御師ト成テ郞曲和琴ノ笙笛笙篳篥等ヲ相傳レ来リ侍ル三代ノ天子ノ師範ニテ鈴虫ノ中納言ト世ニ稱シ侍モ此先祖也此外和歌蹴鞠馬鷹等ノ道モ代々兼行シ侍リシ家也庭田モコノ余胤ニテ郞曲笛等ノ家ニテ侍ル但當代参勤シ侍ラサル也鷲尾モ當時沙汰セズ藪内滋野井譜代ノ儀ニアラスカレ且當時鷲古ヲハケマシ参勤シ侍ルナリ

樂

和琴

四辻

大炊御門

琵琶

伏見

西園寺

今出川

園

綾小路

箏

四辻

正親町

綾小路

藪内

笙

花山院

清水谷

松木

四條

山科

笛

大炊御門

綾小路

徳大寺

久我

三條 轉法輪

中山

甘露寺

橋本

箏

綾小路

右代ハケニレ既ヒ侍ルト見エタリカヤウノ儀定テハ記シカ
 タキ丁ニ侍ルト御神樂御遊等ノ記ニ代々見エ侍ル如粗シ
 ル侍ル也西園寺今出川等ハ古来御師範ニヒル由見テ
 リ近代伏見ニヒラカ園モ又昔ヨリ譜代ノ家業ニテ
 侍ル大炊御門ハ西道ノ御師範ニタテ見タリ四辻ハ権大

納言季経後土御門院ノ御師範ニ参テヨリコトサテ當道
ヲ以テ家業ノヤウニナリ侍ル以前ハ河家ヨリ御師範ニ
参リシカレ彼家断絶後此代ノ御師申侍ルナリ以上書
アラハシ侍ル中ニモ當時ハ祢古ノサタシ侍ラサルトモカウ
モ侍ルニヤ

蹴鞠

飛鳥井

難波

冷泉

綾小路

右飛鳥井ハ参議雅任難波ハ舎兄刑部卿宗長以来譜
代ノ家業トナレリ冷泉綾小路ハ近代其道断絶此外賀茂
ノ社司代ノ蹴鞠ノ時メシクハ侍ルト見エ侍ル也

装束

三條

轉法輪

大炊御門

高倉

山科

右装束ハ有職故実ノ一也依テ三條大炊御門等先祖ヨ
リ殊更是ヲサタスルト見エ侍ル但三條ハ代ノ装束色目
等ノ一ヲカサシ大炊御門ハ代ノ御装束着御ノ儀相續
スト見タリ然ニ西家氏ニ其更断絶シ侍ルニヤ近代ハ高
倉山科是ヲ沙汰ス高倉ハ本是大炊御門ノコトヲ着御
更テ奉行ス然ルニ調進ノ儀モ相兼ト見エタリ山科ハ内藏
頭ノ職ニツヒテ調進ノ更テ本トスト見ユ

陰陽道

天文曆數ノ支ヲ掌ル昔ハ一家兩道ヲ兼ヌ然ニ賀茂
保憲曆道ヲ其子光榮ニツタヘ又天文道ヲ其子安倍清
明ニ傳フ是ヨリフタツニ相分ル賀茂ハ近代斷絶ス當時ハ
庶流自固又閑等ノ支ヲツトメ毎歲ノ御曆ヲ調進ス安
家ハ右ノ土御門也天文道ヲ宗トシテ天変地妖コトキノ怪異
ヲ占申シテ勅文ヲ奉ル家也然ニ當時此支沙汰ナシ又曆道
ニ和氣丹波ノ兩氏アリ和氣ハ正嫡近代斷絶ス丹波ハ當
時院ノ上北面ニ伺候シ侍ル典藥頭ニ成テ屠蘇白散以
下御藥ヲ調進セシメ侍ル是ヲ醫陰ノ兩道ト稱ルナリ

外記

外記ハ一ノ外記ヲ局務ト云清中ノ兩家は是ニ任ス然ニ清家ハ
秀賀朝臣昇殿ヲユルカレテヨリ外記ニ不任己ニ一流斷
ス其職當手恒例臨時ノ公支除目叙位等ノヲヲ奉行ス又
令ニ詔奏ヲカシカヘ公文ヲ讀申スヲ掌ルナト見エ侍ルハ
天下ノ文書ヲ書クイテ諸ノ勅例ノヲヲシル職也夫ハ
一ノ史ヲ官務ト云職當太政官ノ文書コトクハ是ヲ記
シ又令ニ判官以上ノ處分ヲ受テ載録スルヲ掌レリ文
案ヲ勘ヘ作リテ是ヲ署スト見エ侍ル公支ヲ奉行シ先
例ヲカシカフルヲ外記ニ同是ヲ兩局ト稱ス諸ノ宣旨
皆兩局トシテ書侍也

關戶藏書

